

## 基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	短期大学の学科の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクシン オテマエカクエン 学校法人 大手前学園									
フリガナ大学の名称	オテマエカクエン 大手前短期大学 (Otemae College)									
大学本部の位置	兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号									
大学の目的	本学は、情操豊かな教養ある人格の完成を目指した学園創立の精神に基づき、専門の学芸を教授研究し、職業及び實際生活に必要な能力を育成し、もって社会の発展に貢献し得る人材を教育することを目的とする。									
新設学部等の目的	歯科・保健衛生に関する専門知識と高度な技術を持ち、広く社会貢献ができ、医療・保健・福祉等の医療関連職種と連携し、チーム医療の推進ができる専門職業人養成を目的とする。また、歯科医院（一般・専門）だけではなく、大学附属病院・総合病院、障がい者・高齢者福祉施設、保健所・保健センター、教育施設（保育園・幼稚園・小学校等）および口腔ケア用品や医療機器を取り扱う企業等、他分野への進出をも可能とする人材を養成する。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	歯科衛生学科 [Department of Oral Health Sciences] 計	3年	70人	年次一人	210人	短期大学士 (歯科衛生学) [Associate Degree of Oral Health Sciences]	平成32年4月 第1年次	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号		
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	大手前短期大学 ライフデザイン総合学科〔定員減〕 (△50) (平成32年4月)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	歯科衛生学科	講義	演習	実験・実習	計	104単位				
教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等		
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
	新設分	歯科衛生学科	4人 (4)	1人 (1)	6人 (6)	3人 (3)	14人 (14)	1人 (1)	20人 (9)	
		計	4 (4)	1 (1)	6 (6)	3 (3)	14 (14)	1 (1)	- (-)	
	既設分	ライフデザイン総合学科	4 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (11)	0 (0)	57 (57)	
		計	4 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	9 (11)	0 (0)	- (-)	
合計		8 (10)	5 (5)	7 (7)	3 (3)	23 (25)	1 (1)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職種		専任		兼任					
	事務職員		10人 (8)		0人 (1)		10人 (9)			
	技術職員		2人 (1)		1人 (1)		3人 (2)			
	図書館専門職員		1人 (1)		0人 (1)		1人 (2)			
	その他の職員		0人 (0)		0人 (0)		0人 (0)			
計		13 (10)		1 (3)		14 (13)				

校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大手前大学（必 要面積24,080 ㎡）と共用				
	校舎敷地	0㎡	25,520.08㎡	1,232.74㎡	26,752.82㎡					
	運動場用地	0㎡	20,609.47㎡	0㎡	20,609.47㎡					
	小 計	0㎡	46,129.55㎡	1,232.74㎡	47,362.29㎡					
	そ の 他	0㎡	0㎡	2,754.06㎡	2,754.06㎡					
合 計	0㎡	46,129.55㎡	3,986.80㎡	50,116.35㎡						
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大手前大学（必 要面積＜完成年 度＞13,923㎡、 ＜開設時＞ 13,923㎡）と共 用				
		2,812.02㎡ (5,541.42㎡)	12,545.86㎡ (17,377.85㎡)	11,051.27㎡ (13,827.41㎡)	26,409.15㎡ (36,746.68㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	32室	3室	11室	5室 (補助職員 人)	室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		歯科衛生学科		11 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大手前大学・大 手前短期大学全 体での共用分 図書350,346冊 〔59,806冊〕 学術雑誌10,860 種〔8,726種〕		
	歯科衛生学科	1,006〔17〕 (1,006〔17〕)	8〔1〕 (8〔1〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	5 (5)	2,659 (2,659)	139 (139)			
	計	1,006〔17〕 (1,006〔17〕)	8〔1〕 (8〔1〕)	0〔0〕 (0〔0〕)	5 (5)	2,659 (2,659)	139 (139)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		3,167.34㎡	265	206,056						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要			大学全体				
		851.16㎡	-							
経 費 の 積 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
		教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	-千円	-千円	-千円	
		共同研究費等		800千円	800千円	800千円	-千円	-千円	-千円	
		図書購入費	6,600千円	300千円	300千円	300千円	-千円	-千円	-千円	
	設備購入費	250,000千円	1,000千円	1,000千円	2,000千円	-千円	-千円	-千円		
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,390千円	1,190千円	1,190千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	大手前大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	総合文化学部 総合文化学科	4	190	2年次 4 3年次 2	776	学士(学術)	0.99	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号 兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成28年度入学定員減(△30人) 平成29年度編入学定員減(2年次△2人) 平成30年度編入学定員減(3年次△2人)
	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	4	180	2年次 4 3年次 2	736	学士(学術)	1.03	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号 兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成28年度入学定員減(△20人) 平成29年度編入学定員減(2年次△2人) 平成30年度編入学定員減(3年次△2人)
	現代社会学部 現代社会学科	4	220	2年次 4 3年次 2	896	学士(学術)	1.08	平成19年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号 兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成28年度入学定員減(△30人) 平成29年度編入学定員減(2年次△2人) 平成30年度編入学定員減(3年次△3人)
	健康栄養学部 管理栄養学科	4	80	3年次 16	352	学士(栄養学)	1.06	平成28年度	兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	
	国際看護学部 看護学科	4	80	—	80	学士(看護学)	1.05	平成31年度	大阪府大阪市中央区大手前2丁目1番88号	
	現代社会学部 現代社会学科(通信教育課程)	4	500	3年次 500	3,000	学士(学術)	0.34	平成22年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号	
	大学の名称	大手前大学大学院								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
比較文化研究科 比較文化専攻(博士前期課程)	2	10	—	20	修士(学術)	0.20	平成8年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号		
比較文化研究科 比較文化専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士(学術)	0.16	平成10年度	兵庫県西宮市御茶家所町6番42号		
大学の名称	大手前短期大学									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地		
	年	人	年次人	人		倍				
ライフデザイン総合学科	2	200	—	450	短期大学士(ライフデザイン)	0.92	平成16年度	兵庫県伊丹市稲野町2丁目2番2号	平成31年度入学定員減(△50人)	
附属施設の概要	該当なし									

教 育 課 程 等 の 概 要														
(歯科衛生学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
基礎 分野	生物学	1前	2			○								兼1
	化学	1前	2			○								兼1
	基礎英語	1前	1				○							兼1
	コンピュータ演習	1前	1				○							兼2
	心理学	1前	2			○			1					
	医療倫理学	1後	2			○								兼1
	ダンスセラピー演習	2前	1				○		1					
	小計 (7科目)	—	11	0	0	—			1	0	0	0	0	兼4
専門 基礎 分野	解剖学	1前	2			○				1				兼1
	栄養学	1後	2			○					1			
	組織発生学	2後	2			○					1			
	生理学	1前	2			○				1				
	生化学	1前	2			○			1					
	口腔解剖学	2前	2			○				1				
	病理学	1前	2			○					1			兼1
	薬理学	1前	2			○					1			
	微生物学	1後	2			○			1					
	衛生学	1後	2			○			1					
	口腔衛生学	1後	2			○			1					
	公衆衛生学	2前	2			○			1					
	社会福祉論	2前	2			○								兼1
小計 (13科目)	—	26	0	0	—			1	1	0	0	0	兼3	
専門 教育 科目	歯科衛生士概論	1前	2			○			1					
	臨床歯科医学	2前	1			○			1					
	歯科保存学	2前	1			○			1					
	歯科補綴学	2前	1			○			1					
	小児歯科学	2前	1			○			1					
	矯正歯科学	2前	1			○								兼1
	高齢者・障がい者歯科学	2前	1			○			1					
	口腔外科学	2前	1			○				1				
	歯周病学	2後	1			○								兼1
	歯科予防処置論	1前	2			○				1				
	歯科予防処置Ⅰ	1後	2					○		1	6	3	1	共同
	歯科予防処置Ⅱ	2前	2					○	1		6	3	1	共同
	歯科予防処置Ⅲ	2後	2					○	1		6	3	1	共同
	口腔保健指導論	1前	2			○			1					
	歯科保健指導Ⅰ	1後	2					○	1		6	3	1	兼1
	歯科保健指導Ⅱ	2前	2					○	1		6	3	1	共同
	歯科保健指導Ⅲ	2後	1				○		1		6	3	1	共同
	歯科診療補助論	1前	2			○			1					
	歯科診療補助Ⅰ	1後	2					○	1		6	3	1	兼1
	歯科診療補助Ⅱ	2前	2					○	1		6	3	1	共同
	歯科診療補助Ⅲ	2後	2					○	1		6	3	1	共同
	歯科放射線・臨床検査学	2前	1			○								兼1
	基礎実習	1前	1					○		1	6	3	1	共同
	臨床臨地実習Ⅰ	2後～3前	12					○		1	6	3	1	共同
	臨床臨地実習Ⅱ	2後～3前	4					○		1	6	3	1	共同
	地域歯科保健実習Ⅰ	3前	2					○	1		6	3	1	共同
	地域歯科保健実習Ⅱ	2後～3前	1					○	1		6	3	1	共同
小計 (27科目)	—	54	0	0	—			3	1	6	3	1	兼5	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専 門 教 育 科 目	介護技術の基礎	2・3後		2		○									兼1	
	生命科学	2・3後		2		○									兼1	
	医療英語	2・3後		1			○								兼1	
	看護学概論	2・3後		2		○									兼1	
	医療業界と保険制度	2・3後		2		○									兼1	
	カルテ管理と会計	2・3後		2		○									兼1	
	医療事務と情報管理	2・3後		2		○									兼1	
	口腔保健管理法	2・3後		2		○			1							
	医療・介護多職種連携 ゼミナール	2・3後 3後		1 2		○	○		3							兼4 兼1
	小計 (10科目)	—		2	16	0	—	—	3	0	0	0	0	0		兼11
共 通 教 育 科 目	フォーラムA	1前	1				○		4							
	フォーラムB	1後	1				○		4							
	基礎数学	1・2・3後		2		○									兼1	
	日本史	1・2・3後		2		○									兼1	
	人権の歴史	1・2・3後		2		○									兼1	
	家族の法律	1・2・3後		2		○									兼1	
	健康スポーツ	1・2・3後		1				○	1							
	食と健康	1・2・3後		2		○									兼1	
	健康心理学	1・2・3後		2		○			1							
	ストレスマネジメント演習	1・2・3後		2			○		1							
小計 (10科目)	—		2	15	0	—	—	4	0	0	0	0	0		兼4	
合計 (67科目)		—		95	31	0	—	—	4	1	6	3	1		兼20	
学位又は称号	短期大学士 (歯科衛生学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<卒業要件> ・3年以上在学し、基礎分野、専門基礎分野、専門分野、選択必修分野、共通教育科目より104単位以上修得すること。  <履修方法> ・基礎分野11単位、専門基礎分野26単位、専門分野54単位、選択必修分野7単位以上、共通教育科目6単位以上を含み合計104単位以上修得すること。 ・1年間に履修登録できる単位数の上限は52単位とする。						1 学年の学期区分			2期							
						1 学期の授業期間			15週							
						1 時限の授業時間			90分							

授 業 科 目 の 概 要			
（歯科衛生学科）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基礎分野	生物学	歯科衛生士として、生命のしくみ、細胞と組織、遺伝と進化など生物学を基盤とする生命科学の知識は必須である。また生物学は、その発展形としての解剖学、組織学、生理学、生化学と密接に繋がっており、さらに微生物学・免疫学、病理学、薬理学などの学問分野の基本である。生命の成り立ちや進化、細胞の成り立ちと活動、生命が連続するしくみ、生命が環境の変化に合わせて生活するしくみについて理解する。
	化学	歯科衛生士は、医療の現場で多種多様な歯科材料などの物質を扱う立場にあり、化学の基礎的知識が必要不可欠である。化学は、物質の性質、構造、変化に関する学問である。気体や水溶液について学習し、化学反応や有機化合物の基本的な構造や性質等を学び化学の理解を深める。さらに、人体をはじめとした生体を形成している化学物質についても学習する。	
	基礎英語	日常で必要とされる英語の基礎能力を身につけるため、コミュニケーションのための英語の必要性を理解する。前半の講義では、一般の会話の演習を通して英語の基礎知識を学習する。さらに、後半の講義では、歯科における英会話を体験することで、歯科を受診する外国人とのコミュニケーションに必要となる基本的な英語力を身につける。	
	コンピュータ演習	次に挙げる項目の基礎知識と操作方法を、コンピュータ上の演習を中心として学習する。〈ウィンドウズ・ネットワーク・タイピング〉OCNETの利用・インターネット・電子メール・ウィンドウズの基本操作・タッチタイピング習得のための練習 〈Word〉基本操作・文字列・文章入力・文書作成・レイアウトの設定・表作成・表の設定・画像の挿入・図形描画・文書の印刷設定・文書設定 〈Excel〉基本操作・表計算・表の設定・行、列、セルの操作・関数・表の印刷設定・グラフの作成・グラフの構成要素・グラフの印刷・データベース・並べ替え・抽出・差し込み印刷〈PowerPoint〉基本操作・スライドの作成・オブジェクトの挿入・SmartArtによる図解化・アニメーションの設定・配布資料での印刷・スライド課題の作成・シナリオの作成・実際のプレゼンテーション 〈ネットワークセキュリティ〉ネットワークセキュリティ・ネチケット・著作権	
	心理学	心理学の様々な領域での治験を概観し、日常生活との関わりを考える。友人関係や家族関係、性格や自己概念と人間関係との関連、自己開示、人間関係の文化的特徴、リーダーシップや説得的コミュニケーション、集団心理などを学ぶことで、人間理解や自己理解を深めるとともに人の行動と心理を理解することを目的とする。	
	医療倫理学	現代の医学・医療の発展と価値観の多様化に伴い、様々な医療倫理上の諸問題が発生し、医療者と患者の関係も変化しつつある。これを踏まえて、臨床的な観点から、「医療倫理」について考え、より良い医療を志向する。同時に、日本における医療の歴史や「風土」に根ざした生命観、健康観についても考える。	
	ダンスセラピー演習	ダンスには運動不足を解消し、からだがしなやかになるという身体的効果のみならず、ストレスの解消や心の癒しといった心理的効果もある。本授業では、リズムを刻み、踊る爽快感を体感することにより、心身共に健康なボディメイキングをめざす。また、コミュニケーションを重視した実践技法を体験的に学習する。さらに、習得した能力を整理し発表するための効果的なプレゼンテーション方法を学ぶ。 本科目の単位を修得すれば、「ダンスセラピー・リーダー」（日本ダンス・セラピー協会認定）資格取得のために必要な、ダンスセラピー基礎論・実践論・実践技法の単位を修得することが出来る。	
専門 基礎 分野	解剖学	人体の成り立ちを理解するために、人体を構成する骨格・筋・消化管・呼吸器・泌尿器・生殖器・内分泌器官・循環器・感覚・神経系統などについて、その構成と構造を学ぶ。さらに、歯科衛生士にとって重要な、口腔顎顔面領域の解剖学的構造および口腔内・顎骨・顎関節・表情筋・咀嚼筋・神経血管の走行や作用についての知識を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野 専門教育科目	栄養学	栄養素の働きや消化・吸収・代謝について学び、健康維持・増進、疾病予防のための基本的な栄養の知識を身につける。また、年齢に応じた体の状態や機能の変化にあわせた栄養の特徴を学び、各ライフステージにおける食生活の現状や問題点について理解を深める。	
	組織発生学	人体を構成する細胞と組織、人体の初期発生、特に顔面・口腔と歯の発生および組織構造を理解する。まず、生物の基本単位である細胞の構造と機能・細胞分裂について学ぶ。次に、その集合である組織を理解する。また、人体の発生、受精卵から三胚葉の形成、胚子期、胎児期までの人体の発生について学ぶ。更に、歯科衛生士として重要な口腔顎顔面領域の組織およびその発生は、特に深く学ぶこととする。	
	生理学	生理学では、人間がどのようなしくみで生きているかを学ぶ。生理学は臨床医学を理解する上の基礎的知識として「からだの構造と働き」を学ぶ学問である。口腔生理学では特に歯および口腔の機能、口腔感覚、咬合と咀嚼、嚥下と嘔吐、発生機構、唾液の働きなどについて学び、全身の健康維持と口腔機能との関わりについて理解する。	
	生化学	生体の基本的な構成物質である糖質、脂質、たんぱく質とアミノ酸、核酸の構造・機能・代謝、ビタミンの種類・性質・機能、酵素の機能、性質・反能様式について学び、これら生体構成物質が生命現象とどのように関わりがあるかについて知識を習得する。さらに、これらの知識に基づいて口腔と深く関わる硬組織(歯)や唾液について構成要素と役割、齶蝕や歯周疾患の免疫反応を生化学的に理解する。	
	口腔解剖学	歯科衛生士として必要な知識である顔面・口腔の正常な構造と機能を理解する。歯の形態と機能、歯の種類、永久歯(切歯・犬歯・小臼歯・大臼歯)の形態、乳歯(乳切歯・乳犬歯・乳臼歯)の形態、歯の異常、歯の配列と咬合について理解する。	
	病理学	病理学では、病気のしくみと症状を臓器や組織の形態異常や遺伝子異常と関連づけて解説する。口腔病理学では、歯と歯周組織の病気のしくみと症状を中心に解説する。	
	薬理学	薬物の性質、薬理作用および副作用を理解するための薬に関する基本的な知識を習得する。全身疾患と口腔疾患との関連性から使用される薬物等について理解を深める。さらに、薬理学を基礎に口腔領域において使用する抗菌薬や抗ウイルス薬などの薬物療法やアレルギー、歯科治療時に使用する薬剤や使用方法、治療効果等についての知識を習得する。	
	微生物学	歯科衛生士が関わるう蝕や歯周病等の口腔感染症に対する予防処置や患者に対する口腔衛生指導、さらに歯科診療補助業務としての治療機材の滅菌や消毒を行う為に必要な微生物学および免疫学的知識を習得することを目的とする。口腔は人体で最も多くの微生物が生息する器官でもある。歯科衛生士として習得すべき病原微生物(口腔微生物を含む)と感染症、さらに免疫学とアレルギー学の基礎について学び、あわせて感染防御の概念と方法を理解する。	
	衛生学	個人または集団の健康問題を人間と自然環境や社会環境との関係から観察し、問題解決に向けた計画、実施、評価を行うための基礎を学習する。まず、わが国の人口・保健統計における各種指標の意味を理解し、保健医療分野の現状と課題を認識する。そして、健康を左右する環境要因、感染症および生活習慣病の予防対策について学ぶ。さらに、疫学や統計学の知識を身につけることにより、健康問題を科学的に分析できるようにする。	
	口腔衛生学	歯・口腔の健康と予防に関する基本的な知識を習得する。歯・口腔の健康を保持増進することの重要性を認識するとともに、それを実践していくための理論と方法を習得する。また、口腔の二大疾患であるう蝕と歯周病を中心に、不正咬合、顎関節症等の口腔疾患の病因・病態を理解するとともに、その予防法を習得する。人々のさまざまなライフステージにおいて口腔保健に関する教育・指導・相談等の健康支援ができる能力を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門基礎分野	公衆衛生学	地域社会における保健対策の基本的な考え方を学ぶ。公衆衛生の取り組みとしての地域での健康づくり活動をテーマに、公衆衛生学の意義を学び、保険医療データの収集方法や保健統計資料の活用方法など医療情報の取り扱いを学ぶ。また、地域における医療・保健・福祉の取り組みについて知り、さらに、歯科衛生士として自らが地域での健康づくり政策および活動に積極的に推進できる能力を養う。	
	社会福祉論	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解する。現代社会における社会福祉の意義、理念について学び、具体的な社会福祉の法体系、制度、サービス体系について習得する。また、利用者保護に関する様々な制度についても学ぶ。さらに、社会福祉実践の現場、利用者の実態、医療および介護の業務との関連、口腔保健と社会福祉との関連について理解を深める。歯科衛生士に必要な保険・医療・福祉に関する法律・制度について基本的な知識を習得する。	
専門分野	歯科衛生士概論	歯科衛生士の業務を通して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的な知識、技術を習得する態度を身につける。歯科衛生士の歴史・業務内容・職域・関係法規等歯科衛生士の誕生から現在に至るまでの変遷について学び、保健・医療・福祉の分野における役割について理解を深める。また、医療職に求められる倫理、コミュニケーション能力、責務の重要性を理解するとともに、歯科衛生士の各活動分野と各分野における必要な知識・技術・態度を学習する。さらに、対象とする人の歯科衛生ニーズにあった支援をするために、論理的思考に基づき、問題発見および解決するための過程を理解する。	
	臨床歯科医学	歯科疾患の全身の健康状態や全身の疾患を把握するための医療情報、歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な基本的検査および全身の検査の意義と関連を理解する。歯科衛生士は、全てのライフステージにある対象者に安全で安心な歯科保健指導と歯科診療補助業務を提供しなければならない。そのために必要な医療安全に対する一般的な知識を学んだうえで、安全な保健医療サービス、歯科医療サービスについて理解を深める。さらに、歯科医療現場のリスクマネジメントとクオリティマネジメントについて、その重要性や具体的方法を学ぶ。	
	歯科保存学	歯科衛生業務を行うために必要な歯科疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。歯の硬組織に生じたう蝕、咬耗、摩耗などの実質欠損における疾病・形態異常に対する種々の修復法を学び、歯の機能を正常に回復させる処置法について学習する。さらに、各修復法に使用する器具・材料等の取り扱いおよび術式についても学ぶ。歯内療法学は齶蝕、外傷等により生じた歯髄病変の症状、診査・診断を学び、その治療法を理解し、治療に必要な器具、薬剤、術式を学ぶ。	
	歯科補綴学	歯質欠損に対する歯冠修復と歯列の一部あるいは全部の歯の欠損に対する咬合回復の治療法を理解する。歯の実質欠損と歯列の部分的および全部喪失、ならびに咬合の不調和などの起因する顎口腔系の形態、機能および審美障害などの疾患と顎口腔系の形態、機能、咬合、歯の欠損、喪失に伴う変化・障害などの基礎的知識を習得する。さらにこれらの症状に対する障害の回復や改善ならびに咬合の保全を図る目的で行われる歯科補綴治療について学ぶ。また、歯科補綴治療の流れや診療時に使用する器具器材の取り扱いおよび診療補助の心構えについて学習する。	
	小児歯科学	小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。胎児期から青少年期までの定型的な成長・発達をふまえ、各ライフステージでの全身および口腔の正常像、口腔疾患とその予防・治療法ならびに口腔の健康管理、顎骨、歯列および咬合の成長発育について学ぶ。歯科衛生士として、人のライフステージに応じた口腔保健を通じた支援方法等個人および集団の健康の向上に寄与できる基礎を習得する。	
	矯正歯科学	矯正歯科治療の概要について学習する。不正咬合の症状および治療法を理解する。不正な成長発育による不正咬合や上下顎骨の異常な咬合関係を改善・修復する方法を学ぶとともに、その際の治療時に必要な器具器材の準備および歯科診療補助方法を学習する。そして、矯正歯科における歯科衛生士としての役割を理解するとともに、患者に対する適切なケアの基礎を学習し、口腔管理、口腔習癖に対する指導および口腔衛生指導方法を習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 専門教育科目	高齢者・障がい者歯科学	高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。超高齢社会においては、食べる、話す、聞く、呼吸する、笑うなど人が生きるのに重要な機能の低下をきたすなど、著しい障がいを抱えている人が多い。また、障がい児者の口腔疾患の予防と健康管理を行うのも歯科衛生士の役割である。障がいの分野や障がいに対する考え方など知識を深めるとともに、特別な配慮および歯科的ニーズのある人を対象とした歯科治療の方法ならびに対応方法等について学習し、高齢者・障がい者歯科についての知識を習得する。	
	口腔外科学	顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解するとともに、局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する。歯、顎、口腔領域に生じる疾患の診断や治療法の観点から、口腔外科で扱う疾患について、疾患の病態を臨床症状、レントゲン、病理をふまえて学習する。治療に当たっては、多くの場合は観血的な処置が要求され、衛生的状態での処置が必要となるため、滅菌・消毒の概念を理解する。口腔外科を学ぶ上では、疾患の知識のみならず衛生的な概念や、個別の処置内容にとらわれず、患者の抱えている全身状態を観察・把握する総合力が必須である。また、歯科治療時における麻酔についての理解を深め、必要な器具器材の準備方法や歯科診療補助方法等を習得する。	
	歯周病学	歯科疾患の種類、症状、診断法および治療法の基本を理解する。歯周疾患を引き起こす原因とその発症過程を理解し、歯周疾患に関する基礎知識について学ぶ。さらに、歯周疾患に対する臨床的術式を学ぶ。また、歯周疾患予防、歯周基本治療からメンテナンスまでの治療過程を理解するとともに、歯周治療の概念について理解を深める。歯周疾患と全身疾患との関連性について学ぶ。歯周治療や歯周病の予防に歯科衛生士が担う役割について学ぶ。	
	歯科予防処置論	口腔の2大疾患であるう蝕と歯周病の病因、病態、予防処置に関する方法・技術を学ぶと共に、人のライフステージおよび地域での様々な生活の場における口腔保健を通じた支援により、個人および集団の健康の向上に寄与できる基礎を学ぶ。	
	歯科予防処置Ⅰ	歯科衛生士業務の中核となるう蝕や歯周病などの口腔疾患を対象とする歯科予防処置について、専門職としての心構えや口腔疾患の予防に関する基本的知識、予防処置に必要な基礎技能や様々な検査の方法を習得する。歯周組織の健康像を理解し、口腔疾患予防を目的とした諸検査や評価方法および予防的歯石除去を行うための基礎的な知識と技術を習得する。	共同
	歯科予防処置Ⅱ	う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識および技術を習得する。う蝕のリスクの理解と予防の基礎知識を学び、各種予防技術をマネキン実習、相互実習を通し習得する。また地域での活動において実施されるフッ化物について基礎知識を養ったうえで、地域における集団応用や処置法および現場で注意する事柄などについて習得する。	共同
	歯科予防処置Ⅲ	歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な知識および技術を習得する。歯周組織、歯周病の基礎知識を理解し、歯科衛生士が行う歯周疾患の予防処置としてのスケーリング、ルートプレーニング技術をマネキン実習や学生間の相互実習にて習得する。その際に使用する器具器材についての知識や理解を深めるとともに取り扱い方法も習得する。また、超音波スケーラー、エアースケーラーの使用法や術前後の処置、器材の後始末、患者に対するメンテナンス、業務記録の記入方法および症例検討・カンファレンスの進め方について習得する。	共同
	口腔保健指導論	口腔保健指導についての基礎学問的な領域を理解し、歯科保健指導に応用するために、個人または集団の情報を評価し、歯科衛生診断結果をもとに歯科衛生介入のためのプログラムを計画立案する方法を学ぶ。各ライフステージに沿った歯科保健行動と指導方法等について、歯科衛生過程を通して学ぶ。妊産婦・新生児期から高齢者まで全てのライフステージの特性を知り、さらに全身および口腔の健康の維持増進のための口腔ケアに関する基礎知識や技術を習得する。様々な対象者の生活環境や考え方、ニーズ、口腔内環境を正確に理解し、その問題内容を明確化する能力を身につけ、行動変容に繋がる口腔保健指導について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 専門教育科目	歯科保健指導Ⅰ	ライフステージ別の歯科保健指導の内容を理解し、計画、実践できるようにするために、円滑に行動できる知識、態度を身につける。  (オムニバス方式／全15回)  (3. 木林美由紀 ②. 尼寄淳子 ③. 中川裕美子 8. 小澤純子 9. 川西順子 ④. 白水雅子 11. 永島由紀子 12. 三木千津 13. 有本錦 14. 神田恵実／10回) (共同) ライフステージでの歯科保健指導(口腔清掃指導・生活指導)を行う際に必要な対応の理解、コミュニケーション、業務を行うための歯科衛生過程の理解、業務記録の方法等を習得し、口腔衛生管理を行うための基礎的な知識、技術、態度を身につける。  (17. 和田珠子 ②. 尼寄淳子 ③. 中川裕美子 8. 小澤純子 9. 川西順子 ④. 白水雅子 11. 永島由紀子 12. 三木千津 13. 有本錦 14. 神田恵実／5回) (共同) 生活習慣病である歯科疾患は、食生活と密接に関係している。栄養学の基礎知識を学び、ライフステージに合わせた食育支援の立場から歯科疾患の予防・改善のための食生活指導および食育支援方法を学ぶ。	オムニバス方式 共同
	歯科保健指導Ⅱ	多様な生活習慣、生活環境、健康状態にある人々に、専門的立場から口腔の健康維持・増進についての助言と支援を行うために、対象者の様々な情報を収集し、必要な能力を養う。対象者に応じたコミュニケーションをとることができ、個々の歯・口腔の状態を把握し、対象とした歯科保健指導が実践できるようになるための基礎知識・技術を学び、個々の対象に合った指導ができる能力を習得する。また、口腔機能低下に伴う全身疾患の種類と治療の概要を学び、口腔保健管理に関する知識を習得する。	共同
	歯科保健指導Ⅲ	こども園・幼稚園、小学校、中学校等の教育現場や地域において、園児、児童生徒、教育関係者・保護者に対し、個人および集団での歯科保健指導や歯科健康教育が行える基礎知識、技術を習得し、各ライフステージに応じた歯科口腔管理および歯科保健指導能力を身につける。	共同
	歯科診療補助論	歯科衛生士の三大業務の一つである歯科診療補助は、歯科診療を効率よく安全かつ円滑に進めるために行う業務であり、共同動作でもある。歯科診療全般にわたる診療補助の基礎知識や標準予防策の概念に基づく感染防止対策、器具器材の滅菌および管理等を学ぶとともに基本的補助技術および各種歯科材料の取り扱いや患者に対する直接的対面行為(患者介助方法等)の実際について理解を深める。	
	歯科診療補助Ⅰ	歯科衛生士として歯科診療の補助・介助を行うにあたり、診療が安全に行われるための環境整備や、器械・器具のメンテナンスについて学ぶ。また、現在の歯科医療において、共同動作は診療を効率的に行うために必要不可欠なものである。共同動作について学生同士が相互に患者・補助者・術者を体験することによって、それぞれの立場を理解するとともに、共同動作に必要な基本的知識の理解や医療事故・感染対策についても考え、多岐にわたる診療業務の知識と技術を習得する。	共同
	歯科診療補助Ⅱ	歯科診療の補助という行為は極めて専門性の高いものであり、チェアサイドで行われる歯科診療の補助・介助業務の知識・技術を理解する。感染予防、医療安全に留意しながら消毒・滅菌に関する薬剤および器材の操作・管理等歯科臨床実習室の取り扱いの知識を身に付ける。また、口腔外科治療や歯科麻酔時の補助および矯正歯科治療の補助のために必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。	共同
	歯科診療補助Ⅲ	歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および標準的な使用法や保存治療の補助のために、必要な治療手順、薬剤および器材の使用法を習得する。さらに、補綴治療のために必要な検査や治療手順および器材の使用法を習得する。歯科臨床において、歯科生体材料は有機高分子材料、有機材料および金属材料が使用されており、その種類は多種多様である。また、その材料によって取り扱い方は違うため、操作方法についての知識や技術が必要となる。取り扱う歯科生体材料が、最良の機械的性質、物理的性質および化学的性質が得られるかについての知識を学習し、う蝕修復材料および歯科補綴装置と材料との関連性を学んだ上で歯科衛生士としての適格な準備、操作ができる技術的知識を習得する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門分野 専門教育科目	歯科放射線・臨床検査学	歯科放射線学：放射線の定義・性質を学び、人体への影響と防護について学ぶ。また、歯科臨床における画像検査では、主にデンタルとパノラマの撮影について学ぶ。 臨床検査学：臨床検査の種類・目的を学ぶ。一般的な生体検査と検体検査を学んだ上で、口腔に特徴的な臨床検査を学ぶ。	
	基礎実習	歯科診療行為や歯科衛生士業務を実際の歯科診療所や施設において見学・体験する。この体験を通して、歯科診療や歯科衛生士という職業に対する自身の理解を深め歯科衛生士の活動の場を認識するとともに、歯科診療所の機能および役割を理解する。また、今後の講義、演習および実習における学習を効果的なものとし、実習生としての自覚を持ち、望ましい態度で臨床臨地実習に臨むようにする。	共同
	臨床臨地実習Ⅰ	歯科衛生士業務の基礎的技術を演習により習得した上で、地域の一般歯科診療所や専門歯科診療所において実際に歯科診療補助や歯科衛生士の役割と業務について体験学習をする。この実習を通して、歯科診療全体の流れや患者対応および歯科診療時に使用する器具器材の取り扱いや準備、後処理等を習得し、さらに歯科診療室の環境整備や安全管理、リスク評価等についても理解する。また、歯科衛生士としての総合的実践力を修得し、さらに、歯科診療所の機能や歯科医師、歯科技工士等の歯科医療従事者の役割を理解し、チーム歯科医療についての知識と実践を理解するとともに、他の歯科医療従事者や患者とのコミュニケーション能力を養う。	共同
	臨床臨地実習Ⅱ	大学病院において各専門領域における当該診療科の機能や専門性を学ぶとともに、高度先進歯科医療現場における歯科衛生士の立場や役割、多職種との協働や連携について学ぶ。入院中の患者に対する歯科的診療や口腔のケアおよび歯科衛生士の立場からできる生活支援等について、歯科衛生士としての基本的知識・技術ならびに対応方法を習得する。また、総合病院の歯科および口腔外科における当該診療科の機能、診療や症例の特性と歯科衛生士の役割、病院医療に従事する医療専門職の役割と多職種間の協働を理解し、入院中の患者に対する歯科的診療や口腔のケアおよび歯科の立場からできる生活支援等について、歯科衛生士としての基本的知識・技術ならびに対応方法を習得する。	共同
	地域歯科保健実習Ⅰ	保育園、幼稚園、こども園、小学校、中学校等において口腔保健指導（集団指導等）を展開し、問題発見、問題解決型の指導を実践するとともに幼児・児童・生徒のライフスキルを高める。幼児・児童・生徒への口腔衛生活動を展開するためにコミュニケーションを図り、発達段階および日常生活を理解し、その対応法を学習する。また、保育士、幼稚園教諭、養護教諭、栄養士、学校歯科医等他職種との連携の重要性を学ぶ。	共同
	地域歯科保健実習Ⅱ	障がい者施設において、障がい者の現状を把握し、障がいの種類と歯科的特徴の理解を深め、障がい者の発達段階に応じた口腔保健推進支援の出来る歯科衛生士としての能力を養う。また、高齢者施設において、入所する高齢者の日常生活の援助を行い、高齢者の口腔の特徴や生活者としての特性を理解する。対象者の病態を把握し、ライフステージに応じた口腔ケアを実施するために必要な援助・支援技術の方法を身につける。さらに、保健所、保健センターにおける地域保健の実習を通して、各地域の特性に応じた住民の生活や健康課題を理解し、地域歯科保健活動の実際を体験し、歯科衛生士の業務や役割を習得する。	共同
選択必修分野	介護技術の基礎	介護は実践であり、日常生活を営むことが困難な人々に対してその人が人間らしく生きられるように日常生活を支えることであり、この理念を具体化するための手段が介護技術である。近年、口腔ケア技術の実践は、歯科衛生士に求められている領域であり、車いすの操作方法や衣類の着脱法など基礎技術を習得する。特に、施設での歯科口腔介護、障害者歯科治療、歯科訪問診療、訪問歯科衛生指導、居宅療養管理指導を行うにあたり必要となる身体介護技術やリクレーションの技術を身につける。	
	生命科学	本講義では顎口腔領域において、痛覚や圧覚などの一般体性感覚をつかさどる歯髄、歯根膜および咀嚼筋の感覚受容器と、味覚受容器である味蕾について、その神経発生と神経損傷後の再生過程について講義するとともに、口腔顔面領域の痛みにも焦点をあてて痛みの分類、疼痛発生の機序と治療法について講義を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修分野	医療英語	近年、医療現場での英語の必要性が高まっており、会話レベルから専門用語にいたるまで幅広い英語力が求められる。歯科衛生士として特に必要な歯科領域の情報を理解し、プレゼンテーションが行える英語力を養うことを目標として、歯科診療時に必要な一般医学英語、歯科に固有の英語表現と診療時に必要な英会話力を養成する。また国際的な医療活動を知り、世界の現状に目を向け視野を広げることも目的のひとつである。	
	看護学概論	歯科衛生士にとって、人の健康を支援し、予防教育を行う看護知識を学ぶことは、幅広い年齢層の口腔ケアを通して人の健康に寄与する上でとても重要なことである。そのため、法的根拠を基にした看護職の役割や活動内容及び責務や職業倫理を学ぶとともに、人の発達段階に応じた各専門領域の看護を概観し、対象者に応じた口腔ケアの方法と健康支援のあり方を考察する。	
	医療業界と保険制度	医療業界のしくみや現状を学び、コミュニケーション力また医療機関での窓口業務を確実に行うための基本や医療事務（診療報酬請求事務）に役立つ医学知識を学ぶ。「カルテ管理と会計」および「医療事務と情報管理」を併せて履修することにより、2級医療秘書実務能力認定試験の合格を目指す。	
	カルテ管理と会計	資格取得としては根強い人気の医療事務についての学習である。医療機関において受付・会計等の窓口業務が行えるように医療費の算定方法を学ぶ。「医療業界と保険制度」および「医療事務と情報管理」を併せて履修することにより、2級医療秘書実務能力認定試験の合格を目指す。	
	医療事務と情報管理	医療費の算定を基礎とし、ひと月分の医療費をまとめる診療報酬請求事務（診療報酬明細書の作成）が行えるように知識と技能を身につけることを目標とする。「医療業界と保険制度」および「カルテ管理と会計」を併せて履修することにより、2級医療秘書実務能力認定試験の合格を目指す。	
	口腔保健管理法	「歯科予防処置論」、「口腔保健指導論」、「歯科診療補助論」の3科目の内容をさらに拡充・統合し、歯科衛生士が臨地・臨床の場で個々の患者に適した口腔保健管理プログラムを作成し、実践できる能力を習得する。そのため、対象者把握能力とその対応を理解し、口腔機能管理能力を養う。	
	医療・介護多職種連携	医療専門職としての歯科衛生士の態度、価値観、生き方を学ぶ。また、医療や介護現場において実施される、医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士など複数の医療専門職連携の概要に加え、歯科医師・歯科衛生士、医師・看護師などそれぞれの専門職が果たす具体的な役割を習得する。さらに、厚生労働省が2025年を目途に整備を進めている高齢者の自立支援のための「地域包括ケアシステム」の概要を学習する。  (オムニバス方式/全8回)  (⑥. 山下智佳子/1回) 医療や介護の現場での多職種連携において、社会福祉士や介護福祉士の役割や機能を学習する。  (⑧. 脇坂聡/5回) 医療や介護の現場での複数の医療専門職による多職種連携の概要を学ぶ。歯科医師や歯科衛生士の役割や機能を習得し、歯科衛生士としてのプロフェッショナルリズムや生涯にわたり研鑽を積む姿勢を養う。また、高齢者の自立支援のための「地域包括ケアシステム」の概要を学習する。  (⑨. 小井戸佳子/1回) 医療や介護の現場での多職種連携において、医師や看護師の役割や機能を学習する。  (⑩. 大原栄二/1回) 医療や介護の現場での多職種連携において、管理栄養士の役割や機能を学習する。	オムニバス方式
ゼミナール	学生一人ひとりが関心のある研究分野を選択し、それについての教育研究を深め、研究レポートを作成する。また、1・2年次および3年次前期までに学んだ歯学・医学に関する知識の総まとめを行いレポートに追加する。これらの研究結果や歯学・医学に関する総括的な内容を口頭発表することにより、言語能力およびプレゼンテーション力等の育成に加え、医療倫理の再確認等、歯科衛生士として将来にわたり質の向上に資する姿勢や態度について総括する。また歯科衛生士国家試験に関わる科目について、問題演習などによってそれぞれの科目への理解と応用力を深め、歯科衛生士として基盤となる専門知識を確実に身につける。	クラス別	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	フォーラムA	教員等とのコミュニケーションを通して、履修指導、論文・レポートの書き方、数学および理科の基礎学力のサポート、マナー指導、進路相談などの他、学生同士の交流、学生生活を送る上での相談にも応じる。また、本学の教育学習支援システムの操作方法及び活用方法を学ぶ。	クラス別
	フォーラムB	個人のキャリア形成に焦点をあて、その実現化につないでいく。「フォーラムA」に引き続き、教員等とのコミュニケーションを通して、履修指導、国語の基礎学力のサポート、マナー指導、就職を含む進路相談などの他、学生同士の交流、学生生活を送る上での相談にも応じる。	クラス別
	基礎数学	基礎的な数学の知識を修得すべく、次に挙げる分野の知識の学習・計算方法・問題解法の講義・演習を行う。〔数と式、文字式の計算、一次方程式・連立方程式ならびにそれらを用いての様々な文章題の解法、根号の定義・計算方法、階乗・順列・組合せを始めとした数え上げの手法、確率・期待値ならびにそれらの実社会での活用例、三角比と図形の計量〕各回の授業において用語・記号の定義を学習した後、演習問題に取り組み、解法の解説を学習することで、基礎的な数学力を育成することを目指す。また定期的にとまめを行い、学習内容を振り返ることで、より確実に学習した内容を身につける。	
	日本史	本講義は、社会人として、身に付けておくべき教養の日本史を、一方的に講義形式で聞くのではなく、自分で調べ、覚えなおすことを実習形式で学習することによって、しっかりと身に付けることを目的とする。	
	人権の歴史	西欧の人権思想から説き起こし、基本的人権の尊重が日本国憲法に明記されるまでの日本の人権問題を歴史的にたどる。特に手工業者を含む古代・中世の被差別民や女性差別、今日までの部落差別を基軸におく。また、人権問題が社会にどのような影を落としているか、どのように解決すべきかを学修する。	
	家族の法律	タレント夫妻が代理出産の子どもの出生届を出しに行ったら受け付けられなかったという事件があった。また再婚して新しい夫の子が生まれたので出生届を出しに行ったら離婚後300日以内の出生なので前の夫の子としてしか受け付けられなく、戸籍のない子どもが生じているという事件も報道されている。想定外のことが起こったり規定の不備により色々な問題が起こっている。この授業では日本の家族法を概観しながら問題点を確認し一緒に考えていく。	
	健康スポーツ	心身のストレスの増大や運動不足を一因とする生活習慣病の増加など、さまざまな問題を抱えている現代社会において、スポーツ・運動の実施は、心身の健康の保持増進にとどまらず、「生きがい」の創造などに大きく貢献している。本授業では、様々な健康スポーツに親しみ、仲間とのコミュニケーションを深める。	
	食と健康	近年、日本人の健康への関心はますます高まっている。豊かで便利な食生活を享受する一方で、生活習慣病への罹患の増加、食品の安全性への不安など多くの問題が存在する。様々な情報が氾濫する今日、誤った情報に振り回されないために、この授業では正しい「食」と「健康」の知識を身につけ、自己判断力や行動力を養うことを目的とする。	
	健康心理学	健康心理学は、心理学の知見・技術を活用し、心身の健康における諸問題に対し、理論と実践の両側面から心理学的なアプローチを図り、1980年代にアメリカで急速に発展してきた心理学や行動科学の応用領域である。本授業では、健康心理学に関する知識を実生活において活用することを目指し、家庭・学校・職場・地域における心理学的アプローチによる健康教育についての考察を深める。	
	ストレスマネジメント演習	現代社会は、家庭・学校・職場・地域などにおいて、様々な問題を抱えたストレス社会とも言われ、ストレスの増大が心身の健康に影響を及ぼしている。近年、これら増え続けるストレス関連問題を「予防」の観点からとらえた「ストレス・マネジメント」が注目され、健康教育としての「ストレス・マネジメント教育」の必要性も高まっている。本授業では、「ストレスマネジメント教育」の視点から、ストレス概念の理解、ストレス反応に対する気づき、ストレス対処法の習得・活用を目的とし、特に、リラクゼーション法を体験的に学習する。	

学校法人大手前学園 設置認可等に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>大手前大学</b>				<b>大手前大学</b>				
総合文化学部 総合文化学科	190	2年次 4 3年次 2	776	総合文化学部 総合文化学科	190	2年次 4 3年次 2	776	
メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	180	2年次 4 3年次 2	736	メディア・芸術学部 メディア・芸術学科	180	2年次 4 3年次 2	736	
現代社会学部 現代社会学科	220	2年次 4 3年次 2	896	現代社会学部 現代社会学科	220	2年次 4 3年次 2	896	
健康栄養学部 管理栄養学科	80	3年次16	352	健康栄養学部 管理栄養学科	80	3年次16	352	
現代社会学部 現代社会学科 (通信教育課程)	500	3年次 500	3,000	現代社会学部 現代社会学科 (通信教育課程)	500	3年次 500	3,000	
国際看護学部 看護学科	80		320	国際看護学部 看護学科	80		320	
計	1,250	2年次 12 3年次 522	6,080	計	1,250	2年次 12 3年次 522	6,080	
<b>大手前大学大学院</b>				<b>大手前大学大学院</b>				
比較文化研究科 (博士前期課程)	10	—	20	比較文化研究科 (博士前期課程)	10	—	20	
比較文化研究科 (博士後期課程)	3	—	9	比較文化研究科 (博士後期課程)	3	—	9	
計	13	—	29	計	13	—	29	
<b>大手前短期大学</b>				<b>大手前短期大学</b>				
ライフデザイン総合学科	200	—	400	ライフデザイン総合学科	150	—	300	定員変更(△50)
				歯科衛生学科(3年制)	70		210	学科の設置(認可申請)
計	200	—	400	計	220	—	510	
<b>大手前栄養製菓学院専門学校</b>				<b>大手前栄養製菓学院専門学校</b>				
専門課程 栄養学科	80	—	160	専門課程 栄養学科	80	—	160	
専門課程 製菓学科(1年コース)	40	—	40		0	—	0	平成32年4月学生募集停止
通学課程計 (別科)	(120)	—	200)	計	80	—	160	
通信課程 製菓学科(1年コース)	120	—	120		0	—	0	平成32年4月学生募集停止
計	240	—	320	計	80	—	160	